

参加型美術施設

「アートラボはしもと」の後継施設整備に係る前提条件や考え方

アートラボはしもと後継施設の整備については、美術館基本構想（H28.5策定）に基づき、（仮称）美術館（橋本）として整備検討を進めています。

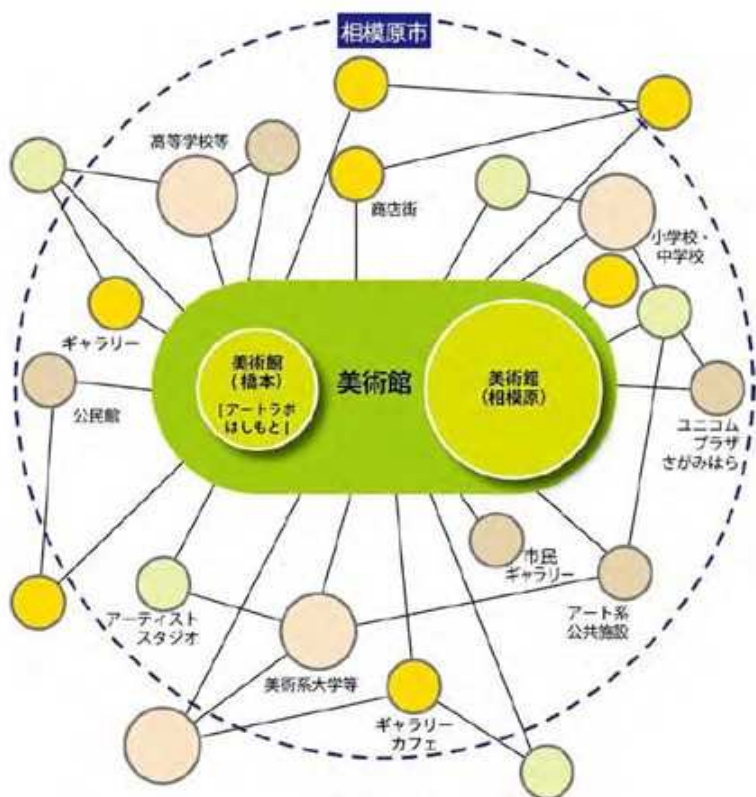
本資料は、施設の整備に向け、現施設での課題などの前提条件や整備に向けた考え方等についてまとめたもので、多くの市民や関係機関の方々等のご意見をお伺いし、反映していくことを前提に作成しています。いただいたご意見は今後専門家による、より具体的な検討を行うための資料とさせていただきます。

後継施設については、民間活力の導入による整備を前提とし、今後、整備の内容や時期などの具体的な検討を進めていきます。

アートラボはしもと後継施設〔(仮称)美術館(橋本)〕に係る本市の政策概要

- 市民の生活や心の中に安らぎや潤いが生まれ、また寛容さや創造性を高めるために、アートは重要な役割を果たします。また、まちの活性化においても、アートのもつ感性を育む力や、発想力・問題発見力は重要です。
- 相模原市美術館基本構想では、アートを通じた「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」が市内の各所で行われることを目指し「さがみはらアートフィールド」というコンセプトのもと、アートラボはしもとの後継施設を、美術の教育普及の拠点(仮称)美術館(橋本)として位置づけています。
- この施設は、美術に関する教育普及などを行っているアートラボはしもとの現在の機能を継承、発展させることで「新たなアートを学び、創造する場」の創出を目指します。

- 美術品の収集、展示等を行う(仮称)美術館(相模原)については、計画地である相模総合補給廠一部返還地のまちづくりとあわせて、今後検討を行ないます。



【アートフィールドと後継施設の関係イメージ】

「アートラボはしもと」とは

寄贈を受けた旧マンション販売センターの土地、建物をそのまま活用し、平成24年に市が開設した美術教育のための施設です。

女子美術大学など周辺美術系大学との連携等により、年間に約25の市民向けのアートプログラムを提供し、約1万6千人の利用をいただいています。

寄贈を受けた建物をそのまま利用しているため、設備などが老朽化していますが、民間から受領した資金(1億5,000万円)を再整備に向け基金に積み立てています。



アートフィールドとは・・・

アートに関わる多様な活動を展開するエリア。自然と都市が共生する本市およびその周辺を意味します。また、アートとは、近現代美術をはじめ、コンテンポラリーアート、写真、映像、デザイン、建築、メディアアートなど幅広い分野の創造活動を指します。

1. 施設で展開する事業の方向性とイメージ

- ・ アートラボはしもとでは、3つの事業目標に基づき、多様な主体との連携により、様々な事業を実施しており、美術館整備に先駆けたノウハウを蓄積しています。
- ・ 後継施設では、事業目標は踏襲しつつ、事業の拡充または改善を図る予定です。

【現状】 ※H29年度実績

アートラボのアートプログラム

見る

- ・ 美術系大学生等の 作品展示 (絵画、インスタレーションなど)
 - ・ 大学生、高校生の パフォーマンスアーツ (演劇、ダンス、映像作品など)
- (実施事業) 大学主催展覧会、学生企画展、アートラボライブショーなど

創る

- ・ 大学教員、美術系大学生、地域在住の作家、地域で働く人々などさまざまな方を講師とする 多様なアートが体験できる各種ワークショップ
 - ・ 親子で協力して作り上げる 親子向けワークショップ
 - ・ 初めてのアート体験、幼児向けワークショップ
- (実施事業) 各大学主催のワークショップ、学生企画展、ワークショップ広場、初めての絵の具遊びなど

交流

- ・ 市内及び近郊の 若手作家スタジオの一斉公開 とバスツアーの実施
 - ・ 小物など 美術系大学生の作品販売 (イベント時)
- (実施事業) SUPER OPEN STUDIO、びだいまるしえ

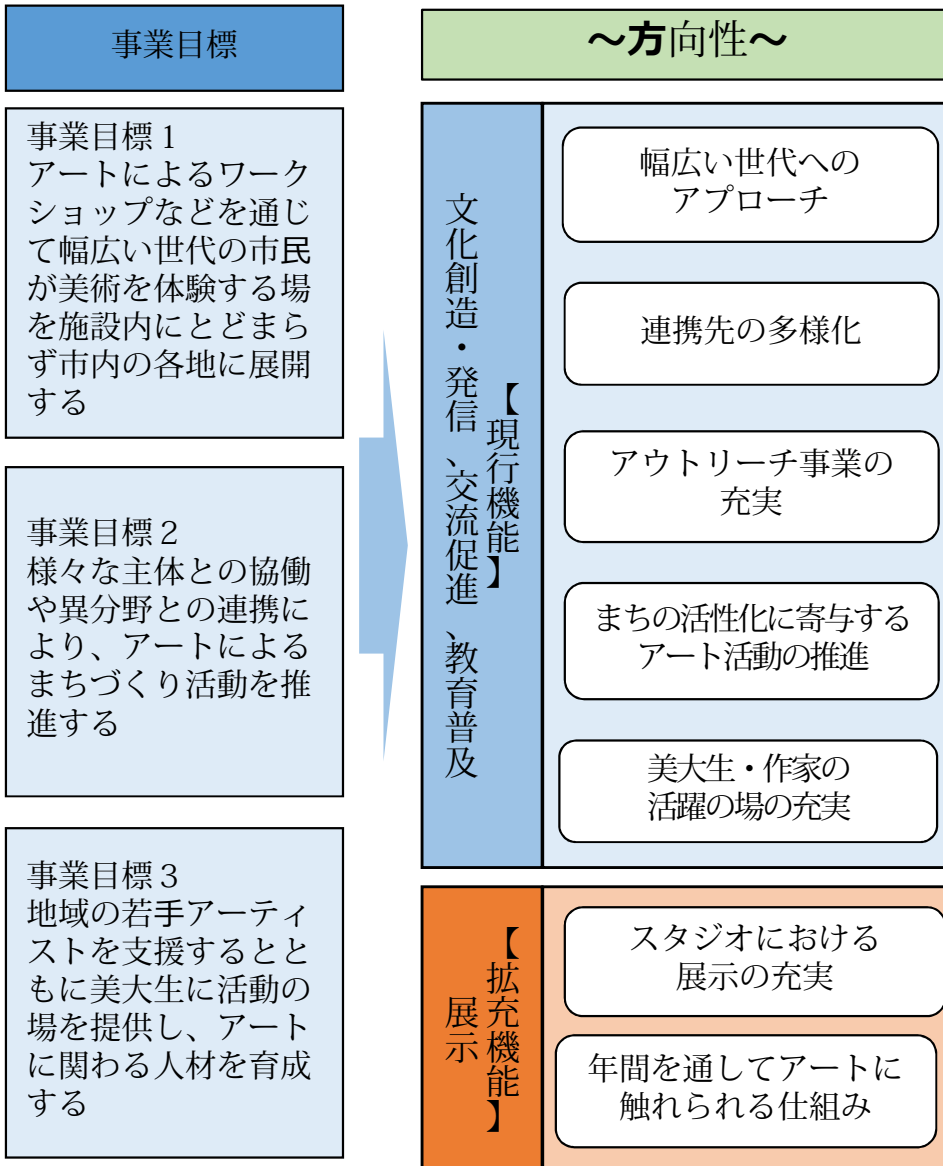
【整備後】

充実を図るアートプログラム

見る
創る
交流
そして
学ぶ
繋がる

- ・ 専門家とともにアートを通じて、さまざまなテーマについて 考え、学ぶ大人向けワークショップ
 - ・ 館内で複数の作家が制作現場を公開する 公開制作 (作家とふれあい、アートへの関心を高める)
 - ・ 美術系大学生や若手作家の 作品展示コーナー を設置し、いつでもアートに触れ感じられる施設に
 - ・ 大学・美大生や作家等と、市民・団体を結びつけて事業化する プラットフォーム機能 を強化
- (実施予定事業) まち×ラボワークショップ、オープンラボ、作品展示コーナーなど

※ 開館初年度における想定事業見込み数：概ね30事業程度
(平成29年度実績：25事業)



2. 施設整備の考え方と配置する諸室のイメージ

施設整備の考え方

- 小規模の部屋を集約。
- 引き続き現在の事業展開が可能な施設内容。
- バックヤードなど現在不足している施設や新たな事業の実施に必要な設備を追加。
- 施設規模については、本市の公共施設等の基本的な考え方を参考に、縮小しつつも機能を充実させ、**市民**が集い、**アート**を通じた活発な交流が**生まれる**施設を目指します。

さまざまな美術活動の発表を行なう場 《スタジオ》

見る

創る

学ぶ

- ・ 市民が参加できるワークショップやアーティストによる公開制作、企画展示、パフォーマンス公演、映像上映などさまざまな美術活動を発表する空間です。
- ・ 収容人員100名程度の規模を想定しています（現行は最大30名）。
- ・ 1又は大・小2部屋程度の配置を想定しています。

文化発信、交流する場 《エントランス》兼

《作品紹介コーナー、情報発信コーナー、交流スペース》

見る

交流

- ・ 美大生・作家の活動を紹介するコーナー、市内外の美術情報や事業についての活動案内・報告を入手できる情報発信コーナーを設けることにより、いつでも美術にふれる機会を創出します。
- ・ 交流スペースを設置し、誰でも気軽に立ち寄り交流できる施設を目指します。

創作活動を楽しむ場 《工作室》

創る

- ・ 多様な創作活動が楽しめる場です。
- ・ 工作プログラムなどを実施し、市民の創作意欲を高めます。

交流

各部屋が連携し一体的に運用できるように配置

繋がる

(参考) 美術館（橋本）に関連する上位計画・関連計画

- (仮称) 美術館（橋本）に関連する上位計画・関連計画は以下のとおり。
- これらの計画に基づき、検討を進めています。

計画名	概要
総合計画 (第3次総合計画 (昭和61年)～ 現計画まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 本市の中長期的なビジョンを定める計画。 • 美術館整備やフォトギャラリー整備を位置づけた。
さがみはら 文化振興プラン (平成22年3月)	<ul style="list-style-type: none"> • 総合計画の部門別計画。文化に携わる市民、文化団体、企業、行政などの基本指針を示す計画。 • 基本目標として「はぐくむ」「つなぐ」「つたえる」「すすめる」を掲げるとともに、美術館に関連する施策を定めた。
相模原市 広域交流拠点 整備計画 (平成28年8月)	<ul style="list-style-type: none"> • 橋本駅、相模原駅両駅周辺を一体的な「広域交流拠点」として捉え、両地区の整備方針を具体化した計画。 • 美術館（橋本）の整備対象地は「創造・文化の核」と位置付けられている。
相模原市 美術館基本構想 (平成28年5月)	<ul style="list-style-type: none"> • 本市における美術館に関する基本的な考え方を定めた計画。 • 美術館（橋本）と美術館（相模原）の基本理念、基本方針、事業の方向性、事業展開、施設整備の考え方、運営・事業推進体制の考え方、広報の在り方を定めている。